

平成26年度 行事 総括

行事回数：49回(73)

参加者：90名(73)

延参加者：407名(423)

延参加日数：585日(605)

(括弧内は昨年度)

新宮山彦ぐるーぷは、創立40周年、南奥駈道再興(第1回千日刈峰行)30周年、世界遺産登録10周年を迎え、大きな節目の年であり創立40周年祝賀会のご案内を発送したが、予期せぬ事態が起こり急遽実施を中止することになった。尚、40周年記念のイベントブルゾンは作製し、会友に半額負担千円で配布した。又、玉岡憲明前代表の功労記念品として、聖護院・宮城泰年門跡様に掛軸揮毫を依頼し快諾を頂き、玉岡宅にお越し頂き贈呈賜る。

昨年4月に世話人代表玉岡憲明氏体制から世話人代表川島、庶務会計沖崎体制になり、これまでの南奥駈道の保守・管理・維持の奉仕活動主体の行事活動は継承している。

昨年に比べて行事回数は33%減少したが、延参加者・延参加日数は5%弱に留まり、むしろ参加者が増加した。年間延参加日数5日以上は34名、10日以上は16名になっている。

行事回数減少は、新旧交代挨拶が無くなった事が影響している。参加者の増加は、世界遺産10周年の節目の年であり、NHK和歌山放送、新聞メディア(共同通信社和歌山支局。毎日新聞新宮通信部、朝日新聞生駒支局、旅行読売)の取材があり、当ぐるーぷ活動の放送と新聞掲載並びに当ホームページ開設が知られて来たものと推察している。

この一年を振り返ると十二項目の特記事項があったので、列举してみる。

一、新春初山行 天川村・観音峯山(Ⅲ△1374・4m)

実施日：1月2日、登山口からアイゼンを着用し、山頂は約1mの積雪があり厳しい冬山を21名が体験した。新雪を踏んで山々に親しむ恒例行事となっている。正月の何かと忙しいなか、仕事初めに多くの方が山行にいそしみ、楽しめる様に企画努力してゆきたい。

新春登山は、平成5年：一族山。6年：伊勢・行者山。7年：龍門山・西又。8年：子ノ泊山。10年：十津川上流の乗鞍岳。11年：大塔山。12年：田辺・竜神山。17年：十津川・ヒバンダラ。18年：三本松と丸尾山。19年：ムネドチノ頭。20年：竜神・城ヶ森山。21年：志摩・国見山。22年：大和・古光山。23年：北山・禅舎ノ倉。24年 大和・後古光山。25年：マスガタヤ山。と継続されている。

二、甲午歳十二支会例会「白馬山(しらまやま)Ⅱ△957・4m」

十二支会は、昭和35年に今西錦司先生が創設され、2順目子歳の昭和47年に子ノ泊山に登頂され、地元の当ぐるーぷが支援・協賛して以来、全国各地の山仲間と懇親を深め、当ぐるーぷ活動を知って貰うと共に支援して頂ける場となっている。

昭和49年：河原川・虎ヶ峰。昭和52年：木本・大蛇峰。昭和58年：木本・亥ヶ谷山。昭和59年：新宮・子ノ泊山。平成1年：田辺・大蛇峰。平成18：粉河・犬鳴山。平成20年：新宮・子ノ泊山。平成22年：河原川・虎ヶ峰。に続いて、第55回例会・動木・白馬山は、地元友好団体として支援した。当ぐるーぷ関係者20名を含め61名の参加があった。尚、山名上は5万の地形図名記載。

三、行仙宿・資材へり荷上げ

2月14日；へり荷上資材を21世紀の森への持込は、チェーン装着する程の積雪で、十津川村役場迄が精一杯で持込めず。2月19日；へり荷上資材を21世紀の森への持込は、除雪され運び込めた。電源開発(株)橋本送電所のご好意により鉄塔補修資材と混載でセメント・ブロック・かまど・木製資材、鉄筋等約600kgの荷上げで、梱包をして下さる。2月21日；行仙宿にへり荷の荷降し・運び込みは、残雪があり、へり荷降し地の踏み固め、行仙宿迄の道を除雪して運び込んだ。

四、行仙宿・管理棟内で一酸化炭素中毒事故発生

3月27日；管理棟内掘りコタツの炭で暖をとって就寝中に、不完全燃焼により一酸化炭素が発生し3人の内2人が重症で、翌朝SOS発信が五條消防署十津川村分署で受信され、へりで奈良県立医大病院へ救急搬送された。幸い1週間で退院できたが、3週間後に突如、遅発性脳症が発症し、しばらく捗々しい回復が見られなかったが、持前の気力・体力により6月末頃から急速に快方に向かわれ略快癒されました。この間、多くの方々
の病氣平癒祈願・激励を頂き深謝申し上げます。

五の一、HNK和歌山放送の取材による報道

NHK和歌山放送局の斉藤放送部記者から取材申込があり、4月19日；行仙宿、5月3、4、6、7日行仙宿で作業活動
を取材され、5月19日和歌山放送・夕刻ニュース番組で約8分間放送。5月23日；笠捨山付近で三井寺奥駈行の空撮と行仙宿での接待を取材。5月23日、24日；行仙宿の水場・補

給路の道普請を取材。8月19日；近畿放送局の地域ニュースで放送。8月23日早朝に約5分間全国放送された。

この放送を視聴した新翔高等学校の先生が、生徒の課外活動として行事に参加される。(今年度；生徒2回、先生4回)

五の二、新聞記者等の取材による報道

共同通信社・和歌山支局；6月29日行仙宿で間伐材集積と皮剥ぎ作業取材。7月29日熊野新聞、8月23日京都新聞に記事掲載。

毎日新聞・新宮通信部；7月2日に近畿版に新聞掲載。

7月6日に平治宿作業取材。

朝日新聞・生駒支局；7月11日玉岡前代表宅で取材。

9月2日朝日新聞奈良版に掲載。

旅行読売記者；6月2日；面談取材。旅行読売11月号掲載。

六、昨年の間伐材で水場・補給路の改修

昨年末に間伐材を集積・加工した材を道普請に使用する。5月4日、5日；補給路ガラ場は、へり荷上げた鉄筋を用いて2段土留めに改修。5月24日、25日；春季もはらくりニツクの道普請奉仕に8名が参加され、総勢21名で水場段差改修(30段)と補給路の栈道カ所の栈木取替・延長に一部鉄筋を用いて改修。

七、行仙宿・新入社員教育の一環として作業体験研修

行仙宿で社会人研修が初めて実施された。5月31日、6月1日；会友・三井幹雄氏勤務の(株)斉藤鐵工所の工場長以下8名とフジポリマー(株)3名の計11名が、水汲み・世界遺産の奥駈道(行仙宿、行仙岳)歩行と道普請作業体験の研

修内容で実施した。

今後、このような教育の場が増えることを期待したい。

八、 玉岡憲明前代表が県知事・大臣表彰を受賞

これまでの活動が自治体に評価され受賞されました。

2月5日 奈良県「クリーン・グリーン実践者」表彰。

6月2日 和歌山県「環境衛生の向上」表彰。

6月11日 26年度環境大臣「地域環境美化功績者」表彰。

誠におめでとうございます。

九、 持経宿改築の事前調査

6月15日；前田勇一氏が新築されてから築35年になり、玄関側の柱・根太・腰板の腐朽が著しく、また屋根の野地板がベニヤ板のため屋根ペンキ塗替えの際、強度不足の安全面が懸念される事から、行仙宿新築の木下嘉彦棟梁に事前調査と見積りを依頼した。その結果、改築費用は180万となり、現在、当るーぶは資金不足ですが、次年度に改築実施する計画です。前田勇一氏と同様に、多くの方々に賛同の浄財寄付を募り、改築する所存ですのでご協力ご支援をお願いしたい。

十、 持経宿く証誠無漏岳く奥・西・中・南八人山くP1300m

く白谷林道く持経宿の周回縦走

7月26日く27日；中八人山の稜線は、これまで篠竹の藪漕ぎを強いられたが、この所大峰稜線の篠竹が一斉に枯れている原因は笹・竹の略60年寿命説などあげられているが不明である。だが周回縦走の好機であり実施した。

篠竹が無く歩き易く、各八人山ピークを踏破し白谷林道へ下る周回ルートが初めて確定出来た。このルートは、これまで藪漕

ぎとアプローチに難点があり敬遠されていたので、登山者の訪れも少なく、山頂・案内標識が殆んど無く次年度に設置したい。

十一、 奥駈道「釈迦ヶ岳く仏生ヶ岳く楊枝ノ森」の倒木処理作業

9月13日く14日；3年前の台風12号の暴風・豪雨により倒木が多数発生し、行政で実態調査され当るーぶにも倒木処理の要請があったが、活動範囲外として断った。その倒木処理を十津川森林組合に依頼したが断られ困っていると、再要請があり手助けすることにした。4名で楊子ノ宿に宿泊し、計27カ所34本の倒木を処理。この倒木処理によってこの間の奥駈道が歩行し易くなった。

十二、 平治宿内改装と屋根ペンキ塗替え

7月6日；児嶋氏寄贈のロケット・ストーブ設置。7月20く21日；桁上の新築時の保管材を用い宿内棚と玄関に靴置場設置。10月4日；毛布12枚備付。11月8日；ストーブ煙突の延長調整。の宿内改装により床上の物が殆んど無くなり、ストーブと靴置場、毛布備付により使い勝手が格段に良くなる。11月15日く16日；イナバ塗装様からペンキの無償提供があり、屋根のペンキをライトグリーンに塗替えた。

最後に、26年度の行事遂行に会友の皆さんからご協力ご支援を賜り感謝申し上げます。

27年度には、太古ノ辻の案内標識の取替、とりわけ持経宿改築が最大の懸案事項であり、皆様方の行事参加奉仕に一層ご協力ご支援をお願いする次第です。

(文責 川島)